

ウクライナ難民 避難民支援の現場から

グレース教会牧師

ハンガリーゼロ日本国際創価対策機構巡回牧師

田村 治郎



ワルシャワ旧王宮広場でのウクライナ独立記念式典

8月14日から9月3日まで、筆者はウクライナ難民・避難民支援のために、ポーランド、ウクライナを訪問させていただいた。筆者が所属する団体、ハンガリーゼロは戦争勃発の翌月から3度にわたってスタッフを派遣し、主にポーランドに避難されて来られた方々の状況を把握し緊急支援と継続支援の具体的な必要をリサーチさせていただいた。当初からのニーズは、主に食料の確保、安全に避難できる避難所の確保であり、また他国への難民申請などを協力団体とともに従事してきた。その中で緊急にサポートが必要なのは「心のケア」であった。多くの難民・避難民の方々は家族、特に夫や息子、兄、弟との離別の辛さ、避難してきた自分たちの今後の見通しが全くつかない不安やストレスが重くのしかかっており、鬱症状を発症する方々も

少なくない状況であった。
今回はハンガリーゼロで親善大使を務める福音歌手の森祐理さんに同行いただいて、ウクライナ3カ所、ポーランド1カ所でコンサートを開催させていただいた。森さんは今までも東日本大震災を始め国内外の災害地で慰問コンサートを実施していただいた。今回もご本人の熱い思いと私たちの希望が合致したという経緯である。

ウクライナでは西部リビウにある避難所の2つの小学校、また西部の町イェソフコフスクにある教会を会場に、日本語・英語、そしてウクライナ語の曲を披露した。「ことばの壁」ということも懸念していたが、歌が始まるとそんなことは杞憂であった。ある婦人は「今日ゆりの歌を聞いて希望が湧いてきた」と感想を述べてくださるなど、歌のもつ圧倒的な力を感じた。

どの会場でもコンサート後には数名の方にインタビューをさせていただいたが、最後に「何か日本人々へメッセージありますか?」と問うと、皆が異口同音「日本が平和でありますように」と折る思いでお答えくださった。「平和」という言葉、平和である日本で聞くこの言葉と、まさに平和が破壊された地で聞く言葉の持つ重みの違いを感じた。(2面へ続く)



ポリチャヤ小学校コンサート



共生する教会 ミッション
グレース教会

2022年10月発行(1978年創刊) 【贈呈版】発行部数:45,000部
発行:グレースタイムズ委員会
〒581-0866 大阪府八尾市東山本新町1-15 TEL:072(997)4838

聖書にはイエス・キリストの言葉が記されている。

「平和をつくる者は幸いです。その人は神の子と呼ばれるからです」(聖書)誰もが平和を愛し、平和であることを願う。しかしもう一歩求められるのは、自らが平和をつくる者となれということ。聖書では何も争いのない状態を平和と表現するのではなく、互いの利害が絡み、憎しみ、敵対がある殺伐とした世の中にあつての課題に具体的に解決に尽力していく「積極的な平和構築」とも言えるアクションが求められている。「誰かがやるだろう」でなく「わたしから始める」ことから平和を作り出していくことの大切さを痛感する。私たちの日常や、また仕事上の人間関係に争いやトラブルはないだろうか？小さなことと高を括っている間に、相手もまた自分自身も取り返しのつかないほどに傷ついていることはないか？少しでもその痛みを感じているとすると、このイエス・キリストの招きの言葉に耳を傾けることをお勧めする。

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、

わたしのところに来なさい。

わたしがあなた方を休ませてあげます」(聖書)



グチフ小学校

どうぞ、お近くのグレース宣教会のチャペルにおいてください。そこでイエス・キリストの休息と励ましを得ることが出来るはずです。そして、世界にある戦争や紛争が1日でも早く止むことを祈り平和を作り出す者として自分の人生を全うしていきましょう。

グレース宣教会牧師

ハンガージェロ日本国際創飢対策機構巡回牧師

田村 治郎



ポリチャヤ小学校



共生する教会

グレース宣教会

ミッション

Official Website



YOUTH.
NATIONS2004

中高生の
教会

Youth Nations

